

【ひらがなの読み】

会話等、語彙に多く親しむ環境の中で、ひらがなを意味のある文字のまとまりとして読むプロセスが小学校低学年ごろにかけて発達します。子どもがひらがなを覚えていくためには、4、5歳レベルの日常会話や語彙理解ができるという言語発達がベースになっていると言われています。その中で読みの困難さが現れる要因としては、視覚情報による文字と聴覚情報からの音の変換が苦手であったり、意味のある文字のまとまりとして読むことが苦手であったりすることが考えられます。また、文章として流暢に読むためには、1字ずつではなく、2～5文字程度を一度に読み取る力とその読み取る時間が一定である必要があります。読みの困難に対して、一人ひとりの実態に合わせて音韻の認識や文字の形の認知処理、空間構成の力を養う必要があります。